

雪でおもいきり楽しもう



雪フェス開催を報告した実行委員会の皆さん

2月9日、菊ヶ丘運動公園で開催される雪フェス2020をPRするため、雪フェス実行委員会（五所川原商工会議所青年部）の皆さんが、9月30日、市長を表敬訪問しました。

このイベントは、2019年度五所川原市民提案型事業として採択されたイベントで、各チーム7名で編成し、雪球で相手チームの選手をより多く倒しながら相手チームのフラッグを抜くチーム対抗雪合戦大会です。

また、雪のすべり台コーナーや雪だるま制作体験などのイベントや飲食のブースも出店されます。

実行委員長の高橋郁恵さんは「チーム対抗雪合戦大会や雪のすべり台など、五所川原の冬をおもいきり楽しめるイベントとなっていますので、ご家族やお友達とぜひ遊びに来てください」とPRしました。

新作立佞武多「暫」下絵発表



下絵発表をした鶴谷昭法技能技師(左)

11月14日、令和2年度新作立佞武多の下絵発表が行われました。新作の題名は「暫（しばらく）」で、歌舞伎十八番の一つに数えられる演目となっています。横暴な公卿の清原武衛が、自らに反対する善良な加茂次郎義綱らを捕らえ、処刑しようとした際、鎌倉権五郎景政が「しばらく～」の一声で現れ、超人的な活躍で助け出し、悪事を暴き大見得を切る場面。

江戸時代の初代市川團十郎以来、代々演じられてきた「荒事」を表現しています。

制作の担当である観光物産課 鶴谷昭法技能技師は「歌舞伎を題材にしたのは、2014年に制作した国性爺合戦と藤内に次いで2作目ですが、今回は、歌舞伎の色使いをほとんど変えないで、迫力のある物を作りたいので、そこを見てほしい」と話しました。

みんなの思いりんごに込めて



りんごを一つずつ丁寧に磨く児童の皆さん

台風19号で被害を受けた宮城県丸森町の9つの小学校に東峰小学校（松山貢校長・児童数119名）の児童と保護者の皆さんが11月18日、支援活動を行いました。

同小学校では、一昨年、昨年、九州豪雨で被災した福岡県東峰村の東峰学園にりんごを贈っていましたが、復興が進んだため、今回台風の被害が大きかった丸森町の小学校に寄贈することにしました。

りんごは、各家庭からの寄付で約900個が集まり、児童の皆さんは被災地に送るりんごを一つずつ丁寧に磨き、段ボール箱に詰め込みました。

児童代表の言葉を述べた山口香和さん（6年生）は「りんごを食べて、はやくみんなが元気になってほしいです」と話しました。

りんご25箱は、手書きの応援メッセージと一緒に各小学校に届けられました。

ストーブ列車いざ出発



出発セレモニーの様子

12月1日、当市と中泊町を結ぶ津軽鉄道で冬の風物詩「ストーブ列車」の運行が始まりました。津軽五所川原駅ホームで行われたセレモニーでは、澤田長二郎社長が「観光客の皆さんが列車に乗っていい思い出になってくれれば幸いです。津軽鉄道は、1930年から運行をはじめ、来年は90年の節目の年。たくさんの方のイベントを開催しますので、多くの方に参加してほしい」とあいさつしました。

11時50分の一番列車には、観光客や鉄道ファン約150名が乗車し、だるまストーブのぬくもりを感じながら、するめやお酒などを味わい、車窓から津軽の冬景色を楽しんでいました。

ストーブ列車は、3月31日まで運行されます。